

① びぜんのかくにそうじやくう **備前国 総社宮** (岡山県指定史跡)

総社は古代律令制時代、平安時代末頃までに全国に設けられた。国司(国の長官)が国内の各神社を巡拝する際、分散していて不便なため、国府に近接する一カ所に合祀し、参拝を略式化した。備前国は国司所祭の古社 128 社の祭神を集めたものと伝えられている。

② ぎおんおおひ **祇園大樋**

元禄 5 年(1692 年)津田永忠が沖新田開発と同時に灌漑用として築造したと推定される。以来度々改修されたが、一部築造時のものが移築・復元展示されている。現在大樋からは古田樋尻川、千間溝川、祇園、外田、後薬園各用水の名で分水され、旭川以東の水田を潤している。

③ たかしまじんじや **高島神社**

祭神は神武天皇で、神社のある山を一名高島山と言う。総社神名帳に正三位高島大明神と見えるのがこの神社であると書かれている。神武天皇が東征の途中3年間(又は8年間)軍舟を留められた吉備高島の旧跡と伝えられ、付近には備前国 総社宮や備前国府の史跡がある。

④ わいたさんあんようじ **脇田山安養寺**

脇田山安養寺常行院といい、竜ノ口山麓の景観の良い位置に建立されている山上加蓋で、寺伝によると報恩大使が孝謙天皇の勅令によって開山した備前 48 カ寺の一寺。宝暦年中(1751〜64 年)に具法法師という僧が再建したと伝えられ、現在の本堂は昭和 11 年に再建された。

⑤ かろうどづかごふん **唐人塚古墳**

この古墳は6〜7世紀の築造と考えられ、横穴式石室を持つ円墳である。石室の全長は10m余りもあり、周辺では牟佐大塚古墳に次ぐ規模を持つ。石棺は兵庫県高砂産の竜山岩が使われ、斜接式となっている(蓋は散逸)。被葬者は、この地方で有数の豪族の首長ではないだろうが。

⑥ いのししべい **猪 塚**

10mほどの瓦屋根縄塀が残っている。元は堅固な造りであったであろうが長い間風雨にさらされ、あちこち崩れている。猪などの野獣に耕地を荒らされ困窮した農民が、竜之口山周辺に延々と築いた塀の一部であろう。



▼高備バス旭川荘線「祇園」下車 徒歩5分



▼高備バス旭川荘線「祇園」下車 徒歩5分



▼宇野バス四御神線「脇田」下車 徒歩10分

高備バス旭川荘線「脇田入口」下車 徒歩5分



▼宇野バス四御神線「脇田」下車 徒歩10分

高備バス旭川荘線又は旭川庄北間線「脇田入口」下車 徒歩15分



▼宇野バス四御神線「脇田」下車 徒歩10分

高備バス旭川荘線又は旭川庄北間線「脇田入口」下車 徒歩15分



▼唐人塚古墳より山側へ坂道を徒歩5分

⑦ しょうだはいじあと **賞 田屋跡** (国指定史跡)

岡山県で最古級の古代寺院の一つである。平成 22 年の発掘調査で、7 世紀後半に金堂が、8 世紀中ごろから東塔と西塔が建てられ、東塔と西塔が接近した変則的な双塔式伽藍として整備されていたことが判明。高くそびえる二つの塔は、当時の人々の目を惹きつけたと思われる。

⑧ かんぱくやしきあと **関白屋敷跡**

平安時代末期、藤原基房が備前に配流された時の屋敷跡と伝えられている。1172 年に基房は関白になり、反家政策で平清盛に怒りを買ひ、関白職を解任され、1179 年湯迫の地に配流された。1180 年京都に召還されるまでの間、ここに住んでいたと伝えられている。

⑨ ゆばさんじょうどじ おおゆやあと **湯迫山浄土寺・大湯屋跡** (岡山県指定史跡)

奈良時代中期 749 年に孝謙天皇の勅命により報恩大師が備前 48 カ寺の一寺として開山した薬師如来を本尊とする天台宗の古刹である。隣接する大湯屋跡は鎌倉時代初期後葉坊重源上人が東大寺再建のため、料国として与えられた当地に滞在していた際、施療(病気の治療)の為建設したと伝えられている。

⑩ びぜんくるまづかごふん **備前車塚古墳**

全長約 50m高さ 5mの規模を持つ岡山県最古級の前方後方墳。後方に長さ 5.9m、幅 1.35m、高さ 1.5 mの竪穴式石室があり、中国製を含む銅鏡 13 面、刀剣・矢じり・鉾等の武器、斧・ヤリがんな等の工具が出土しており、被葬者は大和政権との結びつきが考えられる。

⑪ 大神神社

天物主神(天國主命)以下四神を祭神とした神社(延喜式神名帳にも大神神社四座と記載されている)で「西御神」の地名もこれに由来したと考えられている。社地内には、近世の建造物と思われる随神門・本殿・拝殿等があり、また楠本神社・梨本神社等の小社も祀られている。

⑫ おまちまいがんそ ひ **雄町米元祖の碑**

高級清酒の原料として珍重されている雄町米は今から 150 年程前の安政 6 年、高島地区雄町の篤農家岸茶甚造が伯耆大山の牛馬村からの帰途、大粒のモミをつけた稲があるのを見つけ、ひそかにその稲穂を持ち帰り栽培したところ大粒のモミが実った。彼の住む村にちなんだ「雄町」が名称となっている。



▼宇野バス四御神線「脇田」下車 徒歩0分



▼宇野バス四御神線「浄土寺前」下車 徒歩5分



▼宇野バス四御神線「浄土寺前」下車 徒歩3分



▼宇野バス四御神線「東ヶ丘団地」下車 徒歩30分



▼宇野バス四御神線「東ヶ丘入口」下車 徒歩10分



▼宇野バス東岡山線「雄町中」下車 徒歩10分

⑬ おまち れいせん **雄町の冷泉** (全国名水百選)

池田岡山藩の御用水井戸として有名であった。昭和 61 年、環境庁の全国名水百選に選定され「深みのあるやわらかい口あたりのよい水」として評判になった。現在は冷泉と同じ水を「おまちアクアガーデン」で求められるようになった。

⑭ すきのおじんじや **素盞鳴神社**

雄町の冷泉と同じ滞水層にある豊富な地下水を汲み上げ、水くみ場、親水広場、水時計、滝、足踏み水車などの水関連施設が整備されており、水を求めて来る人が絶えない。夏の親水広場は、親子連れの賑やかな声で満ち溢れている。

⑮ びぜんこくしょうと **備前国 庁 跡** (岡山県指定史跡)

社伝によると正徳 2 年(1712 年)に池田綱政が京都の祇園社より祭神を迎えたのが、この神社の創設と伝えられている。当初、祇園宮と呼ばれていたようだが、いつの頃からか現神社名で呼ばれるようになった。鳥居をはじめ、石造狛犬、桧皮葺の本殿ならびに拝殿の絵馬など一見に値するものがある。

⑯ はたはいじあと **幡多廃寺跡** (国指定史跡)

国庁は古代律令制の下、各国ごとに設けられた地方統治の役所で、正に各国の政治経済の中心地であった。備前市の国庁は旧上道郡高島村(現岡前市中区)国府市場近くに建つ写真真の「国庁宮」を中心にした位置にあったと推定されていて、往時の繁栄ぶりが偲ばれる。

⑰ ひゃつげんがわに **百間川二の荒手**

白鳳時代、7 世紀末頃の建築と推定される寺院跡である。発掘調査が行なわれた結果、塔、金堂、講堂の各基壇と東西南北の回廊などが検出され、奈良三彩の破片などから、中央貴族と結びつきのある地方の有力豪族の氏寺と推定される。

⑱ てんまんぐ **天満宮**

菅原道真を祭神とするこの地の氏神で、今在家の天満宮は吉備温故秘録に「五壺天満宮」と載せてあり、明治になって現在の社名に改められた。今在家一帯は天神様があるので落雷しないと昔から言い伝えられている。

⑲ ひゃつげんがわに **百間川一の荒手**

旭川と百間川の分流点に築かれた越流提の名称。ここが百間川の源流点。岡山城下を水害から守るため、池田光政が津田永忠に命じて 17 世紀末に完成。旭川が危険水域に達すると増水した水がこの荒手を越えて百間川に放流されるよう設計されている。

⑳ なかしま くびづか **中島の首塚**

1567 年、備中の三村元親と備前の宇喜多直家が戦った決戦を明禰等谷戦と言う。大敗した三村軍の戦死者を地域住民があちこちに集めて葬り、幾つもの塚を作って蓋を吊った。この塚もその一つで、しかも石碑の建てられた塚は他に例がなく、歴史的価値の極めて高い史跡である。▼宇野バス「中島」下車 徒歩5分

㉑ びぜん やはらのみや **備前八幡 宮**

元和元年(1615 年)岡山藩 2 代藩主池田忠雄によって創建された。その後 4 代藩主池田綱政により京都男山八幡宮から分霊が勧請され、社領地も寄進を受けて岡山城及び地域の守り神として崇拝されてきた。祭神は応神天皇・神功皇后・玉依姫。

㉒ なかまじょうし **中島城址**

本来の城址は約 100m 西方にあったが、道路新設に伴い現在地へ移設された。当城は地域の豪族中島氏の居城で戦国時代急速に勢力を伸ばしたが、宇喜多氏と備中三村氏による明禰寺合戦に巻き込まれ、城主中島次茂之丞はある人物によって斬殺され、その後城は廃城となった。

㉓ ひゃつげんがわに **百間川二の荒手**

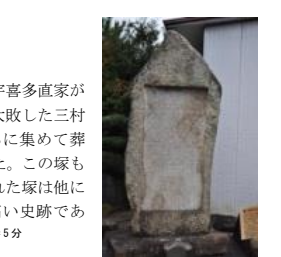
旭川の放水路として開削された百間川。この川には 3 本の荒手(越流提)が築かれたが、現在も当時の面影を残しているのはこの二の荒手のみ。洪水時の激流の勢いを弱め土砂を堰き止め、流れの方向性を誘導する役割を持つ。この荒手の長さが百間であったことから百間川と命名された。

㉔ あさまぐ **朝間宮**

良縁・授子・安産の神様として、また地域の守り神として江戸時代から在郷住民に敬拝されてきた神社。度々の寺社整理の波にさらされながらも明治 10 年、存置許可がおりて今日に至っている。祭神は米花咲耶姫命・天日貴命(大国主命)也。



▼宇野バス東岡山線「中島」下車 徒歩10分



▼宇野バス東岡山線「高島団地」下車 徒歩1分



▼宇野バス東岡山線「中島」下車 徒歩0分



▼宇野バス東岡山線「中島」下車 徒歩2分



▼宇野バス東岡山線「中島」下車 徒歩5分